

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	特別支援教育課長 三島賢隆	電話番号	0852-22-5420
----------	---------------	------	--------------

事務事業の名称	特別支援学校図書館教育推進事業		
目的	(1) 対象	特別支援学校の幼児、児童、生徒	
	(2) 意図	特別支援学校の図書館機能を整備し、幼児、児童、生徒の学習活動や読書活動の充実を図ることで、豊かな感性や情操を育む。	
事業概要	特別支援学校における障がいに応じた図書館機能(※)を果たすために、学校司書を配置した図書館利用の促進や教員と連携した授業での図書活用等の推進、蔵書の整備を行う。 (※) 図書館機能 ① 読書センター機能 児童・生徒等が読書を楽しみ、読書指導の場としての機能 ② 学習・情報センター機能 児童生徒等の主体的な学習活動を支援し、必要な情報を収集・選択・活用できる場としての機能		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 図書貸出数	目標値		13,400.0	14,000.0	14,700.0	15,400.0	冊
		取組目標値						
	式・定義 特別支援学校における年間図書貸出数	実績値	12,768.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	6,895	6,932
うち一般財源 (千円)	6,895	6,932

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成25年度に、特別支援学校全校に配置した学校司書による親しみやすい学校図書館の運営により、児童生徒の図書に関する興味が深まり、学校図書館を利用する児童生徒等が増加している。
 蔵書整備については、全ての特別支援学校で不足しているが、毎年少しずつ整備している。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

- 学校図書館利用者の増加
- 図書貸出数の増加
- 授業において、学校図書館の利用や図書資料の活用の増加
- 学校司書を対象とした研修等により、司書スキルが向上
- 蔵書数の増加

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 児童生徒数が多い学校では、司書機能が十分図れない。
- 蔵書数は増加しているが、不足状態の解消までには至らない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 非常勤による学校司書のため、大規模校や分教室を抱える学校では十分な勤務時間が確保できていない。
- 蔵書整備予算の確保が困難。

③原因を解消するための「課題」

- 各校での学校司書活用の実態把握の不足。
- 予算の縮減。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

各学校での学校司書の勤務状況や活動内容を精査し、必要に応じて学校間一律の勤務時間ではなく、学校規模等に応じた勤務時間等を検討することで、図書館教育の充実を図る。
 蔵書数については、短期間で大きく改善することは困難なので、学校間・県立図書館・近隣図書館等と連携しながら蔵書を融通しあうとともに、蔵書整備は今後も継続する。

9. 追加評価 (任意記載)

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。